

令和6年度学校自己評価シート

(鴻巣市立川里中学校)

目指す学校像	自ら学ぶ力と人間性を育む川里中
--------	-----------------

重点目標	1 生きる力の醸成 2 開かれた学校づくり地域連携の強化 3 いきいきと働ける職場作り～合理化と組織化を軸に～
------	---------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	当該学校側	3名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							学校関係者評価	
令和6年度目標					令和6年度評価(2月3日現在)		実施日 令和7年2月21日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【生きる力の醸成に関する取組】 (現状) ○学力調査・標準検査では伸びが確認された。 ○学校行事・授業に真剣に取り組んでいる。 (課題) ○基礎的・基本的事項の定着が課題となる生徒が散見しており、学習自立ができない。 ○指示を待つ傾向が強く、主体性が低い。	○教職員研修の充実 ○個に応じた指導・個別最適な学習の支援 ○主体的に学びに向かう態度の育成	① 教員の指導力向上のため、学校課題研究を推進する。 ② TT やいきいき先生の配置や補習など、個別最適な学習のための指導助言を実施する。 ③ 学校行事・部活動等で集団活動での体験を増やし、やりがいや楽しさを実感させる。	① 校内研修会を定期的開催し、本発表として市内外に研究成果を発表する(月1回以上・11月7日) ② 県学力調査において「学力を伸ばした」生徒の割合を県平均より上げる。 ③ 生徒の活動後アンケート「積極的に取り組めた」肯定的回答80%以上	① 学力向上の研究委嘱を受け、2年間研究してきた成果を発表した。研究を推進する中で、校内の意識が醸成され、参加者へ有益な発信ができた。 ※発表後質問紙97.4%肯定 ② 研究の過程で指導方法が見直され、また、個に応じた指導の機会を確保できた。 ※中2国▲3.7% 数▲6.9% 中3国▲7.6% 数○4.9% 英▲10.3% (県の伸び率との差) ③ 生徒質問紙 R5/82.5%→R6/90.0% 積極的に取り組めたと回答。	B	・学校課題研究発表の機会にご指導をいただき、指導法の工夫改善から学力向上をすすめられた。知識及び技能から思考力・判断力・表現力にシフトしたため、指標とした伸びがマイナスとなってしまったので、バランスを考えて指導し、主体性を育てるようにしたい。 ・人的配置を工夫し、個に応じた指導を行う。 ・行事や部活動などの集団生活の楽しさから自己有用感や肯定感を養い、不登校生徒対策につなげていきたい。	学校関係者からの意見・要望・評価等 ・実践研究が学力向上に結び付いていると思うが、まだまだ教師主導の授業が多いので、協働学習やICTを活用し、主体的・対話的で深い学びの実現を考えてほしい。 ・授業を参観し、個に応じたきめ細かな指導がなされているが印象的だった。続けてほしい。何かができるようになる達成感は自信につながり、主体性を育むと思う。 ・忙しい中だとは思いますが、効果的な指導ができるように意見交換の場(校内研修)を確保してほしい。 ・生徒は先生方のいきいきと明るく授業する様をみると、意欲的に取り組むようになると感じた。 ・先生方は生徒理解のために真剣に取り組んでいる様子がかえる。
2	【開かれた学校づくり地域連携に関する取組】 (現状) ○保護者・地域との連携を徐々に再開している。 (課題) ○情報発信はしているが、双方向でのコミュニケーションが不足している。	○校内およびPTA組織再編 ○学校公開の実施と積極的情報発信 ○地域活動への参加・貢献・協力	① 地区理事の廃止 執行部再編によるPTA活動の活性化 ② 学校公開・授業参観の機会を増やし、保護者と対面でコミュニケーションを図る。 ③ 地域活動へのボランティア参加を促進する。	① 規約改正の可決と執行部理事会での熟議と活動実施 ② 10回以上の学校公開の実施と授業参観の再開 ② のべ100人以上のボランティア参加	① R6.3.19に会則一部改正を行い、地区役員廃止、地区別選出廃止、PTA会費減額した。理事会がスリムになり、協議がすすんだ。 ② 学校公開・授業参観を12回実施し、対面でコミュニケーションが図れた。 ③ かわさとフェスティバル・花久の里庭園祭り等、年7回のべ200人以上がボランティア活動に参加した。	A	・地区の括りを撤廃したことで活性化が図れ、徐々に学校主体の運営からPTA執行部理事中心に運営している。今後は、任意での加入や市P連等との関係などを見直したい。 ② 学校公開はできるようになり、コロナ禍前水準になってきたが、参加者に偏りがあるので、多くの方が学校に足を運べるように工夫したい。 ・地域活動については継続し、生徒の体験活動の一助にしたい。	・コミュニティスクール制度によって学校が開かれたものになった実感がない。学校からの発信は増えたが、相互交流となるとその仕組みの構築が必要となる。地域学校協働活動推進委員会の設置を求めたい。 ・学校が様々な状況や情報を公開することで、地域理解に大きな役割を果たしている。 ・この地域独自のボランティア活動への継続的な参加を促したい。
3	【いきいきと働ける職場づくりの取組】 (現状) ○在校時間は徐々に減りつつあり、意識は高くなっている。 (課題) ○協働がすすまず、在校時間に偏りが見られる。	○働き方改革の推進 ○教職員事故・不祥事根絶	① 分掌・学年での協働を促し、在校時間の均一化と短縮につなげる。 ② 運営委員会と各種委員会の授業時間内実施を計画し、定期的開催により、原案を練り上げ、協働につなげる。 ③ 倫理確立委員会の定期実施	① 月80時間以上を0の月を3ヶ月。平均45時間以内 ② 運営・研究・生徒指導・教育相談部会を授業内月に3回以上。 ③ 教職員事故・不祥事0	① 80時間越えゼロを3か月だけは達成できた。平均45時間以内は通年で達成した。 ② 運営・生徒指導・教育相談については月に3回以上授業内での実施ができたが、研究推進と校内研修の実施が頻繁に行えなかった。 ③ 県政ニュースや新聞などを活用したミニ倫確も実施でき、教職員事故・不祥事ゼロ。	B	・推奨期間の成果で、少しずつ定時退勤できる日も増えた。超過勤務時間の偏りを解消するために分業化・チーム化をすすめたが、一部職員の考え方や仕事のやり方についてはモチベーションにも関わるので、指導できないので、根本的に仕事量を減らす工夫が必要である。 ・風通しが良い、共通理解・行動がとれる職員集団を目指し、今後も不祥事・職員事故根絶を目指す。	・先生方が着々と指導力を向上させていることがわかる。健康に留意され、ご尽力いただきたい。 ・教職員の不祥事は子供の心の傷になるので根絶をお願いしたい。 ・生徒と関わる時間や授業準備の時間など本来、教員として必要な時間ができるように、構造的に削減し、ICTを駆使して能率化するなどしてほしい。仕事の絶対量が減らないと時間は生まれない。 ・設置部活動数の減少は生徒数を考えると致し方ない。選んだところで頑張っている生徒も多いと聞く。

